

総務文教委員会会議録

1. 開催年月日

平成26年 8月11日 開会 9時55分 閉会 11時23分

2. 開催場所

委員会室

3. 出席委員名

西田久志 大鳴二郎 西村慎次郎 三宅文雄
藤原浩司 宮地俊則 森下金三

4. 欠席委員名

なし

5. その他の会議出席者

(1) 副議長 上野安是

(2) 事務局職員

事務局長 三宅道雄 事務局次長 岡田光雄
主任 藤井隆史

6. 傍聴者

(1) 議員 0名

(2) 一般 0名

(3) 報道 0名

7. 発言の概要

委員長（西田久志君） 皆さんおはようございます。

ただいまから総務文教委員会を開会いたします。

〈議長あいさつ〉

委員長（西田久志君） 本日の議題は、1、議会への提案についてから3、その他でござ

います。

〈議会への提案について〉

〈回答案について協議〉

〈決定〉

〈所管事務調査〉

委員長（西田久志君） 先般の委員会におきまして執行部からいただきました資料と、さきの行政視察の研修内容を踏まえ、9月に予定している課題の整理に向けて皆様に協議をお願いし、具体的調査事項について各委員で課題を想定して質問を考えていただくという意見にまとまったところでございます。

また、施設整備状況については、先般いただいております資料では現状がわからないということから、各学校の学校要覧をいただくということになりました。

まず初めに、教育委員会から各学校の学校要覧を提供していただき、お手元に配付しておりますので、ごらんいただきたいと思います。

お手元に学校要覧を18校ですか、小学校13、中学校5校いただいております。大変膨大な資料でございますので、簡単に見るということはできんと思いますが、先ほど休憩中ではございますが、藤原委員のほうからありましたとおり、それぞれに前回、前々回にいただいた資料を踏まえての考えの中で、要覧をいただくということで前回したわけでございますが、この資料で皆さんが施設整備状況の調査ということなんですけれど、それに足り得るかということもあるわけでございます。

特に、ICTにつきまして西村委員から前回ございましたが、教育委員会のほうでは把握はある程度してるんですけれど、各学校において個々に購入された物に関しては調査しないといけないんでもう少し時間をくれということをご回答をいただきました。その中で、これ以外にもう少し要るのかなというご意見があれば、また資料を集めたいと思うんですけれど、全般におきましてこの工程上の中で9月にある程度まとめるということで、学校のスケジュールもございますが、前回の総務委員会で8月中か、もしくは9月になったら学校のほうへ訪問していろいろ質疑をするというようなことも決めておりますので、資料もありますがその方向できょう全般的に進めてはいきたいというふうには考えを持っております。たちまち資料につきましてはどうでしょうか。

〈なし〉

委員長（西田久志君） ないようでございますので、随時また要るときに求めていくということにさせていただきます。

次に、前回委員の皆様にお願ひしました課題を想定した質問事項を発表していただきまして、皆様でご協議いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（西田久志君） それでは、発表していただきたいと思います。基本的に1から3ということ、きょうの資料にも、皆さんのお手元へ配付しておりますが、1番から3番ということで、それぞれにおきまして委員の方で学校において課題に準じた質問事項をここで発表していただきたいと思います。また、その項目が委員の方で重なる場合はこの委員会でまとめたいと思います。

ただ、委員全員で行くということに際しまして、事前にある程度の質問を学校教育課のほうへ提出していきたいとは考えております。それ以外におきましては、質問することに関しましての深いことに関しましては、当日また学校のほうで質問したらというふうを考えておりますので、それぞれ発表していただきたいと思います。

委員（西村慎次郎君） 全部言えればよろしいですか。1、2、3全部。

委員長（西田久志君） 1から行きましょうか、1から。

委員（西村慎次郎君） すごいありますけど、いいですか。

委員長（西田久志君） 1から行きましょう。

委員（西村慎次郎君） 1から。まず、施設に関しては、小・中学校の面積という資料があったと思うんですけど、それを見ると、生徒数と施設の規模っていうのは比例しないです、現状で行くと。当初は比例してたのかもしれないですけど。そういう差がどう学校生活とか学力に影響を及ぼすのかどうかというのは見えないんですけど、そういったところをどう学校側として感じられてるか。施設として足りないと感じられてるか、十分と感じられてるか。

委員長（西田久志君） 面積と生徒数の比例が。

委員（西村慎次郎君） 例えば、建物の面積に対する子供1人当たりの面積で行くと、1人当たり100平米を超えてる学校もあれば20平米ぐらいしかないような学校もあるんで

す。そういうところで、伸び伸びと学校生活を送れてる学校もあれば、狭苦しくて遊ぶスペースもないじゃないかという感じでる学校もあるんじゃないかなというふうに思ったんで、そういったところの学校生活を送る上での施設の格差っていうのはどう感じられてるかなというのがあります。

委員長（西田久志君） これは、その学校へ行って、多いところと少ないところがあります、多いところには行ってどう思われてますかという質問をするということですか。

委員（西村慎次郎君） そうです。広いところは広いところでメリットがあると感じられてるのか。

委員長（西田久志君） 要は、先生……。

委員（西村慎次郎君） 広過ぎて管理がしづらいと思われてるのか、それはわかりませんが。いろんな学校を先生方は回られてるんで、その辺の差を感じられてるところがあるんであれば。広いところの学校の先生にも聞いてもいいかなというふうに思います。

委員長（西田久志君） 続いて。

委員（西村慎次郎君） 続いて、どこに入るかわからないですけど、複式学級って私は全然見たことも経験もないんで、どんな形で授業されてるのかなというところで、複式学級の課題っていうのは見えなかったんですけど、このあたりはメリットもあるかもしれないしデメリットもあるのかなというところで聞いてみたいなというふうに思いました。

委員長（西田久志君） 存在がメリット、デメリット。複式学級はどんな形でされているのか。

委員（西村慎次郎君） を見たいというのと、複式学級による学校生活に対して不便はないのかとか、学力向上に向けて不便はないのかなという。ちょっと施設じゃないんでどこまで言ってもいいかわからないけど、実際の複式学級を経験されてる方に聞くと、例えば3、4年生であれば3、4年の2年間で3年と4年の授業を受けるということをされて、じゃあ途中からそこへ転校してきたり違うところへ転校しようとする、4年で転校しようとする、転校した先が学年別であれば、転校した先は3年の授業が終わってるわけです、4年生で。そうすると、転校しづらいとか。転校してくる子にとっても転校してきづらい課題があるのかなあという。複式学級がゆえにその学校を離れていくというような話もちょっと聞いたので、そういったところでどんな形で授業をされてるとか、学校生活を送られてるのかなというの聞いてみたいなというふうに思います。

委員長（西田久志君） 複式学級がどんな形でされているのか。複式学級における学校生活、学力向上に不便はないかということですね。

委員（西村慎次郎君） はい。

委員長（西田久志君） その中の質問で、これは途中から転入したり転出したら終わっている授業があるのではないかということですね。

委員（西村慎次郎君） はい。

委員長（西田久志君） 次、お願いします。

委員（西村慎次郎君） あとICT関係については、先ほど委員長が言われたように、後日また具体的な回答をいただけるということであれば、今回はありません。

とりあえず、施設に関しては以上です。

委員長（西田久志君） どうでしょうか。西村委員のをまとめようか。

ほんなら皆さんに言っていただきます。

委員（三宅文雄君） 私は、施設のことで先ほど西村委員と若干共通するんですけども、先般いただきました資料の中で、各校とも特別教室の面積が普通教室より多いところがあるということ、特別教室という名のもとに空き教室がようけあるのではないかなというふうに感じました。やはり、既存の施設を有効に利用するというので、そういうふうな考えもあるんですけども、そこら辺もやはり不要なものは何らかの対策を講じなければいけないのではないかなというふうに思います。

委員長（西田久志君） ちょっとまとめると、施設の特別教室が多く見られる。

委員（三宅文雄君） そうです。

委員長（西田久志君） 特別教室の名のもとに空き教室がある。いろんなものに……。

委員（三宅文雄君） そうです。空き教室を特別教室として利用されているのではないかなというように思うんです。

委員長（西田久志君） 不要というか、空き教室に対策を。

委員（三宅文雄君） そういうことです。よろしいですか。

委員長（西田久志君） 続いて。

委員（三宅文雄君） それと、私は一番興味を持ったのが、自分なりに各校の職員の方が負担を均等に、職場環境というのはあるべきではないかなということ、学校別の職員の方々がどのようにおられるかということで、自分なりにリストをこしらえてみたんです。そうしたところが、問題点として小規模校と大規模校とで必ずしも負担を軽減するような職員の数にはなっていないというふうに思いました。というのが、例えば具体的に言いますと、野上小学校では児童数は16名です。それで、教員の方は10名おられます。事務員は1人おられます。出部小学校では児童数は407名で、教員の数は30名、事務員は2名ということで、それで小規模校にも大規模校にも校長、教頭、事務員はそれぞれおられます。特に、私が思うのは、小規模校において、日常それぞれの立場におられる方々がどんな仕事をされ

とるのかなということをちょっとお聞きしてみたいなというふうに思います。

私たちは出部地区におるもんですから、出部のことはよくわかるんですけども、小規模校の先生方がどんなことをされておるのかなあということもちょっとお聞きしてみたいなというふうに思います。

委員長（西田久志君） 職員の職場環境について。

委員（三宅文雄君） そうです。

委員長（西田久志君） 小規模校、大規模校の職員にどんな仕事をしているのかを聞きたい。

委員（三宅文雄君） はい。

続けてよろしいですか。

委員長（西田久志君） はい。

委員（三宅文雄君） 次は、男性教員と女性教員の比率なんですけれども、町なかのいわゆる井原小学校とか出部小学校においては、女性教員の比率がかなり高い、女性教員の数が多いということなんです。それを市内でバランスをとった男性教員と女性教員の比率を適正な数にする必要があるのではないかなというふうに思うんです。

委員長（西田久志君） この件については、学校でというふうにはちょっと無理なのかなとは思いますが、例えば教育委員会のほうへ聞くとかということになるのかなと。

委員（三宅文雄君） それは教育委員会でもええと思うんです。教育委員会のほうで、人事のほうはされとると思うんで、教育委員会のほうでなぜ町なかの小学校において女性教員の比率が高いのかということも聞いてみたいなど。

委員長（西田久志君） 男性教員と女性教員の比率について。女性教員が多いのはなぜか。

委員（三宅文雄君） 中心部というか。

委員長（西田久志君） 中心部に。

委員（三宅文雄君） 大規模校です。その辺を聞いてみたいなというふうに思います。

委員長（西田久志君） これは教育委員会です。

委員（三宅文雄君） そうです。

大体、以上です。

委員（宮地俊則君） 私は、先日も議論した中で、全校ということにはたしかなくなってしまったと思うんです。ある程度ピックアップしてということだったと思いますんで。

まず、1番の施設整備につきましては当然予算措置が伴いますし、市教委が適宜優先順位をつけて執行されていることであろうかと思えますんで、それを第一の前提としまして、行

かせていただいた学校において、現場の声として市全体で学校にこういったものがあればいいとか、あるいは本校にこういうのがぜひとも必要なんですというような現場の声を行ったところでのお聞かせ願えればなというふうに思います。

それともう一点、さっきも出ておりましたけれども、各学校のICT、これも行ったところになるかと思えますけれども、利用状況なんです、わかりやすく言いますと、どの程度使いこなしているか、使いこなさずあ、費用対効果というわけじゃないですけど、どれぐらい実際に役に立ってるかどうかというのを現場の声として聞かせていただきたいなということです。

委員長（西田久志君） 市全体を含め、現場で必要なものを聞きたいと。

委員（宮地俊則君） どういったものかいいと思われてるか、あるいは本校においては早急にこれがぜひとも必要な施設整備において。

委員長（西田久志君） 施設整備です。

委員（宮地俊則君） それは、当然ながらスタンダード的な市内全域においてバランスをとるようには当然市教委のほうも優先順位をつけてやっていると思いますので。

委員長（西田久志君） と、ICTの状況について。

委員（宮地俊則君） 利用状況なんです、実際もっと具体的に使いこなしてどれぐらい効果が上がってるか、非常に役に立ってるかどうかというのが確認させていただきたいなと思っています。

委員長（西田久志君） 以上ですか。

委員（宮地俊則君） はい。

委員（藤原浩司君） これも委員長、1から全部。

委員長（西田久志君） いや、1だけ。

委員（藤原浩司君） 1だけですね。施設の整備状況の調査ということで、一応全部見させていただく中に、先ほど西村委員も施設の1人割の広さというものを、いいことを言われたなと思うんですが、その中でほんの少し手を加えればいいなっていうような施設の改善面を、この中に先生の意見としてしてほしいなということを書かれてありました。

井原管工事組合のほうでもボランティアで募ったときに18施設、18施設ってことはほとんどです。ただ、その18施設の中に幼稚園も含めてますんで、本当にこんなことに予算をつけてないのかというようなこと環境整備ができてないということがありました。

特に、階段の縁が欠けて危ないであるとか、それから水道関係、トイレ関係です。水がとまらないであるとか、水道が漏れているとか。ここにもう一つ立水栓があれば子供たちが外遊びをしたときに、手洗い、足洗をしてきれいに上がってこれることができるかという、

本当にたわいもないような施設整備ができてないという状況を確認させていただきました。その中で、一応ヒアリングをしてみたいなというのは、毎年毎年予算執行をするときに、大体学校側からこちらへ教育委員会から上がってくると思うんですけど、それも本当に2,000円、3,000円で済むことが予算がないというような形で切られていたという状況があります。それと、毎年夏に環境整備とボランティアということで、保護者さんが皆さん出られて、中の学校施設の整備をさせていただきます。そういった中でも、これは子供たちが減っているからゆえに保護者も減っているんだと。これは本当に保護者がしなくてはならない仕事なのかなと、整備なのかなというようなことを多々見受けられるし、苦情も聞きます。そういったことを現場におられる先生方、常日ごろかかわられとる先生方にもっと深く聞いてみたいなど。それがより子供たちの安全・安心のためになることであれば、委員会としてもやはり提言の中に加えていくべきかなと思いますので、子供たちの安全・安心を第一に考えたような環境整備は深く聞いてみたいなど、1の部分では以上です。

委員長（西田久志君） 環境整備の充実について。

委員（藤原浩司君） そうです。詳しく。

施設です、施設の整備。

委員長（西田久志君） 施設整備。

以上ですか。

委員（藤原浩司君） はい。

委員（大鳴二郎君） 1番の施設は、一番重要なことじゃ思うんが校舎もだんだん古くなってきよるところが多いんで、そのあたりで危険な、藤原委員が言われたように、危険な箇所が多分あるはずで、先生方も把握しとると思うんです。そこら辺をどう思われて市に要望なり出されていく方向でおるかということ、まずそこらあたりを聞いてみたいなど思っておりますので。

委員長（西田久志君） これも藤原委員のプラスですね。

委員（大鳴二郎君） もう一緒じゃ思うんです。

委員長（西田久志君） わかりました。

私は、防犯なんですけど、校門はきちっと整備されてそれぞれ入っていかないようになってすけれど、他の部分、要するに不審者が入りやすい環境になっているんじゃないかというのを聞いていきたいと思います。その1つです。

続きまして、2番、いじめ問題に関する調査。

委員（西村慎次郎君） 学校評価書というのが、学校別のいただいた中をのぞいて見ると、学校ごとでいろいろな視点で書かれてるんで、共通する課題かどうかというのは見えて

ないところがあるんですが、例えば高屋小学校で行くと自分の学級が居心地がよいという児童が昨年に比べると減少しているとか、稲倉小学校で行くと学校生活が楽しくないと答えた児童への手当が必要であるとか、あと木之子小学校で行くといじめや仲間外れがないと感じる保護者が72%しかいないとかというような形で挙げられているので、その辺の実態として先生がそういう、アンケート調査での結果が書かれてるんですけども、そういうアンケートの結果を踏まえて実態としてどういう状況なのかなというところを聞いてみたいというふうに思います。

あと、ほかにも現状を聞きたいというと全部つながるんですけど、例えば井原小学校では、教師と児童、相互の好ましい人間関係づくりができてるかっていう質問が、75%はできてるって答えてるけど25%いないということで、学校としては低いと見られてます。そういったところで、具体的にどういう努力をされてきて結果としてどういうところが問題だという、具体的な課題を持たれているのであれば、そういうところを聞いてみたいと。

委員長（西田久志君） 再度、もう一度お願いします。

委員（西村慎次郎君） 教師と児童、相互の好ましい人間関係づくりでどういうところが低いと思われてる、具体的にアンケート結果のパーセントが低いと感じてるだけじゃなくって、中身としてどういったところが事例としてあるのかどうか。

委員長（西田久志君） ちょっと2つなんですけど、アンケートを踏まえ、いじめの現状を聞きたい。先ほど言われた。

委員（西村慎次郎君） いじめにつながる芽という、いじめの現状というといじめはありませんってなると思ってるんですけど。

委員長（西田久志君） いじめの……。

委員（西村慎次郎君） 芽となるような、アンケート調査では何らかの、学校が居心地が悪いとか仲間外れをされてるんじゃないかと親が思ってるとかというアンケート調査が出てきてるんで、まだいじめとはなっていないかもしれないんじゃないけど、いじめの予備的な状況があるのかどうかというところで、学校として把握されてる事象というんですか、こういうアンケート結果になる理由っていうのが学校として何か把握されてるのであれば、それを聞いてみたい。

委員長（西田久志君） いじめの芽となるものがあるのか学校が把握されているか聞きたいということですね。

委員（西村慎次郎君） いじめと呼ばれないような小さい事故、事件というのは多分あると思うんです。それが結果としてこのアンケート結果に4分の1ぐらいの人が学校がおもしろくないとか、親としてもいじめをされよんじゃないかというふうな、そういうふうを感じ

られてるといふ、現実的にアンケートに出てきてるんで、それに対して学校として具体的にそういう結果となってもおかしくないねというような、学校生活で気づかれることがあるのかどうか。

委員長（西田久志君） いじめに発展していく、まず初期の段階のを学校として把握…
…。

委員（西村慎次郎君） 気づかれてることはあるんじゃないか。

委員長（西田久志君） 2番目、教師と児童の人間関係が低いと感じられるが、これもどう思われてるかということです。アンケート調査で。そういうことですか。

委員（西村慎次郎君） そうです。ただ、そこは井原小学校の資料からしか伺えないんで、ほかの小学校では全く問題ないと言うてかもしれませんし。

委員長（西田久志君） 続いて。

委員（西村慎次郎君） あと、中学校になるんですけど、1校だけしか書いてなかったんですけど、話し合い活動のあり方を今後検討していく必要があるとか、初期対応のあり方を充実させるとか、そういったことがないからか、努力はされてるんだけど不登校生徒の解消につながってないとかという課題を持たれてるんで、今までの取り組み内容と現状の具体的な課題と今後の学校としてされようとしてる取り組みについて。今の話は井原中学校の資料から見えました。

委員長（西田久志君） 今までの取り組み内容、具体的課題、学校のこれからの取り組みについて。

委員（西村慎次郎君） はい。

委員長（西田久志君） 続いて。

委員（西村慎次郎君） ここは以上です。

委員（三宅文雄君） 私は、先ほど職員さんの数のことを言ったんですけども、小規模校ではいじめとか不登校というのは余りないと思うんです、基本的に。だけど、大きい学校でそういったことが表に出ることがかなり多いということで、子供たちと向き合える先生のあり方というんか、先ほど女性の先生が町なかで多いということも、いじめというんか、学級崩壊とか不登校なんか気にしているところがあるのではないかなというふうに思うんです、自分なりに。やはり、適正な配置をすることによって、そういったいじめとか不登校なんかも解消できるのではないかなというふうに思います。

委員長（西田久志君） 子供たちと向き合う先生のあり方について。

委員（三宅文雄君） 大きい学校では、先生が多くの子供を見なければならぬんで、目配りが行かないと思うんです。だから、そこら辺もそういったことにつながっていくのでは

ないかなというふうに思うんですけど。

委員長（西田久志君） 男性が女性がという先生のあれについてはどうかなとは思いますが、要するに大規模校、小規模校での……。

委員（三宅文雄君） 目配りじゃ。

委員長（西田久志君） 教員に対する生徒数の比率によっては目配りがいかないんじゃないかということですね。

委員（三宅文雄君） そうそう。そういうことがいじめの原因になってるんじゃないかなというふうに思うんですけど。

委員長（西田久志君） 以上ですか。

委員（三宅文雄君） よろしいです。

委員（宮地俊則君） 2のいじめ問題です。このいじめ問題につきましては、国も県も大変な重要な課題として、いろいろ研究も既に進んできているようであります。本市においても、しっかりアンケートあるいは統計をとり実態把握に努め、また連絡協議会が設置されて現在対応してるということを踏まえた上で、このいじめ問題を解決に向けて、先ほど言われましたこれは統計、アンケートって言っても毎年動いていくもんだろーと思いますし、これさえしとけばいじめが起らないというような特効薬というのはなかなかないんじゃないかなというふうに思います。ですから、先ほど西村委員が言われたように、実態把握またはどこに芽があるかということ現場の先生にお聞きすると同時に、現場の先生から私はいくらしたらいじめが解決できるんじゃないかな、なくなっていくんじゃないかと思うというアイデアというものが、個々の先生で持とられたらぜひそういうのをお聞かせいただきたいなど。例えて言いますと、全国的に有名な例の「早寝早起き朝ごはん」運動、これなんかはもちろん学力向上にもそうですし、いじめの解決にも物すごく大きく有効だったと思います。現在もやとられるわけですが、例えばの例でしたけども、そういう個々の先生で、1つだけというもんで決してないと思いますんで、いろんなアイデアを持とる先生もおられると思う、現場の先生の。そういうのをぜひお聞かせいただければなと思っております。

委員長（西田久志君） 実態把握する上でどこに芽があるのかということもあるのか、その中でアイデアもお聞きしたいと。

委員（宮地俊則君） 最後のところが一番気になったところ。

委員長（西田久志君） いじめの芽に関して早目に摘むという、こういうことですか。

委員（宮地俊則君） そう。それは先ほど西村委員が細かく言われましたんで、そういう現場の先生の思われてる、こういうところに本当は芽があると私は思ってますというよう

な。ですから、現場の声を聞いた上で、そのアイデアを持っとられれば、ぜひざっくばらんにお聞かせいただきたいということです。

委員長（西田久志君） わかりました。以上ですか。

委員（宮地俊則君） はい。

委員（三宅文雄君） ちょっとすいません、審議会の方へ。

委員長（西田久志君） 済みません。他の委員会がごさいます。私、聞いておりますので。よろしくお願ひします。

委員（藤原浩司君） 先ほども休憩中に委員長とも駄弁させてもらったんですけど、いじめの問題に対するっていうことは、本当にここはデリケートな問題で、先生に言っても本当に回答は返ってこんと思うんです。ですから、例えばこれを全部見る中で、やはり家庭の教育っていうのが一番だというような形を書いておられる学校もあります。遠回しに書かれるところもあります。それに対しては、とりあえず僕が聞きたいのは、いじめに対してのこととかということとは学校側は、例えばP T Aを通じて親御さんのほうへ1回か2回かでもアンケートをとったことがあるかなと、それを聞きたい。多分とってられないと思うんで、それに対してはやはりとっていくべきではないかなと。中には、親御さんの学校関係者の評価委員とか評議会の委員さんが答えられとんで、もうほとんど学校で教育するべきでないことを、家庭での教育でのことの文句とか事柄が書いてあることがほとんどなんで、そのさび分けとか、学校は学校の位置づけ、それから家庭は家庭の位置づけというもんがあるから、それに対して先生の意見はどうなんかなと。私が考えとる意見が合ってるのか違ってるのかも聞きたいですし、全体を通してそういうふうに見受けられたから、率直な考えでアンケートもとるべきだと思うし、そっからがやはりいじめの問題を解決する扉の鍵になるのかなという気がしますんで、そこは聞いてみたいです。

それと、このいじめの問題に対してのことでも大きな学校にはP T Aという組織があるんで、そのP T Aの組織がいじめのことに関してどのぐらい踏み込んだ実態調査であるとか親御さんとの会合であるとかということをやっておられるかということも、たしか教頭先生、校長先生はP T Aの役員になられとるんで、その辺のことはよくわかっておられると思うんで、そういうことも含めた中で聞いてみたいなところぐらいです。

委員長（西田久志君） ちょっと短くしますけど、家庭教育についてのアンケートをされているかどうか。

委員（藤原浩司君） そうそう。

委員長（西田久志君） それから、P T A組織がどのぐらい踏み込んだ調査をやっておられるか。

委員（藤原浩司君） 対応しているかと、いじめに対して。

委員長（西田久志君） わかりました。

委員（大鳴二郎君） 先ほども出よったんですけど、いじめは多分大なり小なりあると思うんですけど、学校がそういう対応しとるかが問題であると思うんですけど、いじめでも昔のいじめ方と現在のいじめ方が多分大分違うと思うんで、そのあたりをどういういじめ方があるか、例えば仲間外れにするとか、へえから教室の中で歌を歌うとかという芸能ショーみたいなことをやるいじめとか、今はやりのネット上のいじめですか、誹謗中傷でもネット上であるんで学校のほうにも全然わからんという、そういうことも多分今ごろの子供たちは、特にゲームなんかは熱中してやるんで、そういうことがあるんじゃないかなということ、またばい菌いじめとかという、汚い、来るなという言葉でやる、こういうこともあるんじゃないかなということもあるんで、そこら辺をどこまで把握しとってか、対応をどうしよるかということも、言うてねえかどうかわからんけど、そこらあたりをまず聞いてみたいと思います。

委員長（西田久志君） 昔と今のいじめについて。特に、ネット上のいじめについて、また口から出る言葉についてのいじめについてを聞きたい。

委員（大鳴二郎君） そうそう、そこら辺で。

委員長（西田久志君） 私は、皆さんが言われたんともう重複するんであれなんですけど、やはりいじめが起きる原因はどういうことなのか。そしてまた、要するにいじめが起きないようにどういうふうにされているのか。また、いじめが起きた場合のどういう対策を現場でされているのかっていうことを聞きたいんですけど、これもまたありきたりの答えが聞かれるのかなということもあるんですけど、やはりそこら辺の本音たるものも聞きたいなと。現場へ行くとそういう声も聞けるんじゃないかなという期待感があります。

続きまして、3番目、生活環境調査について。

委員（西村慎次郎君） これについては、資料でいただいたゲーム、携帯（スマホ）、習い事調査集計表とかという資料を見させていただいて、それぞれ課題を教育委員会としても要注意という位置づけですけども書かれています。

テレビ、ゲームの時間が2時間以上やってる子供たちが多いとか、朝食をとってない子が5から10%いる、中学生にとっては15%いるとか、睡眠時間が徐々に短くなってきてるとかというような課題を書かれています。そういったところと、先ほどいじめとか不登校につながる部分の関連性があるのか、学力についてもこういう生活が以前から変わってきてるってところで、学力との関係とかというところが、先生側から見て感じるのかどうか。生活環境とそういういじめ、不登校の関連性、あと学力との関連性っていう、個人的にはある

と思ってるんで、そのあたりの関連性に対しての先生側から見た意見を聞きたいというふう
に思います。

委員長（西田久志君） もう一度ちょっとまとめてください。今のもう一回おっしゃって
ください。

委員（西村慎次郎君） テレビとかゲームをする時間がふえてきてる、朝食をとらない生
徒や児童が5から15%いるとか睡眠時間が年々減ってきてるという実態を踏まえて、学校
の先生として見ていじめや不登校にその生活環境の変化が影響してきてるのか。また、学力
へも影響してきてるのか、学校の先生としての意見をいただきたい。

委員長（西田久志君） テレビやゲームの時間、朝食を食べる食べない等のことが、先生
としていじめや学力等に影響しているのかということを知りたい。

委員（西村慎次郎君） はい。

委員長（西田久志君） 続いて。

委員（西村慎次郎君） 携帯電話とかも含めてです。生活の変化っていう。

それと、学校と家庭との連携、生活環境と紐がつくかかどうかわからないんじゃないけど、1
つの原因って家庭環境という、家庭教育も含めてですけど、そこの変化がいろんな問題を引
き起こしてるんじゃないかという、ちょっと仮の原因を想定を個人的にはしてて、学校の先
生に聞くとすると学校と家庭との連携をどう捉えていくか、家庭環境とか家庭教育に対して
先生側から見たご意見があれば。なかなか言えないでしょうけど、どう思われているかなと
いうところで、こういう改善をしてくれたらと。言われてる、やんわりと言われてきてると
は思うんですけど、そういった学校側から見てそういう改善要望があれば、先生の意見を聞
きたい。

委員長（西田久志君） 学校から見て家庭との連携はどうなっているのか。

委員（西村慎次郎君） まず、実態として学校と家庭、保護者との連携をどう捉えている
かという話と、学校側から見て、先生から見て家庭教育と家庭環境に対してどういう改善…
…。

委員長（西田久志君） 家庭教育と……。

委員（西村慎次郎君） 家庭環境に対してどういう課題があって、それに対してどういう
改善をしてほしいというような要望があるか。

委員長（西田久志君） 学校から見て、先生から見て家庭教育と家庭環境に対して、どう
いう課題があり改善したらいいかということを知りたい。

委員（西村慎次郎君） はい。

最初の質問のつけ加えて、いろいろ問題はあると。テレビ、ゲームの昔に比べるとたくさ

ん見てる、してるっていう、あと携帯電話の使用がふえてきてるとか、朝食をとらないとか睡眠時間が短くなってる、そういったいろんな課題があるんじゃないけど、まずどこを改善すりゃあええんだというような先生側から見た、全てが改善されればいいんでしょうけど、何か例えば睡眠時間を小学生は9時間以上とかというような何か学校側から見てこれが改善されれば、まず改善、大きな学校生活を含めて、ちょっと変化が出るんじゃないかというようなポイントっていうのは、思われてることがあれば聞きたい。

委員長（西田久志君） これは最初のやつですね。

委員（西村慎次郎君） はい。

委員長（西田久志君） テレビやゲームの時間、朝食をとるとらん、携帯等について学校の先生としていじめや学力に影響しているかと言われた、それについてどこを改善したらいいか、例えば睡眠時間等について学校から見てどうかということです。ちょっとこれはあれしてますけど、まとめるとそういうふうにもうちょっとまとまると思うんですけども。

委員（宮地俊則君） 私は、子供たちの生活環境改善のための課題と対応ということについてお聞きしたいと。言ってしまうえば、それはもうこれまでいただいている資料にもそれぞれの学校で、表現ちょっと申しわけないですが、通り一遍のことは出てるようにも思います。先ほど西村委員が言われたようなことも含めて出てくるんじゃないかなと思うんですが、さっき委員長が言われたように、現場へ行って現場の先生方とお話しすれば、それ以外の本音が出てくるんじゃないかということをご期待した上で、以下4点についてお聞きしたい。

1つ目が、学校運営上において思われること。2点目が、教職員の立場からそれについて思われること。3番目が、保護者、PTAに対して思われること。4点目が、議会を含む行政に対して思われること。こういったことが、ここにもいただいている資料にも載ってないようなプラスアルファの本音が聞かせていただければと。全く出てこない可能性も非常に大だと思っておりますが、出てくることを期待してやってみないと。

委員長（西田久志君） 子供たちの生活改善の課題と……。

委員（宮地俊則君） それに向けた対応について。これが調査の一番の目的だと思うんですけども。

委員長（西田久志君） 学校運営上の思い、教職員の立場での思い、保護者、PTAの立場での思い。

委員（宮地俊則君） いや、保護者、PTAに対して。

委員長（西田久志君） 対して。

委員（宮地俊則君） 今さっきの西村委員が言うたような家庭生活に関してということですよ。

委員長（西田久志君） 思い、議会を含む行政に対しての思い。

委員（宮地俊則君） それら4つの角度からお聞かせ願えることが、これまでにいただいとる以外のもので、こう私は個人的に思うんだというのがもしあれば、ぜひお聞かせいただきたいと思っております。

委員長（西田久志君） 以上ですか。

委員（宮地俊則君） はい。

委員（藤原浩司君） 生活環境調査ということで、皆さんが言われたこととほぼ同じなんですけど、とりあえずPTAとの連携をいかに密にし、学校、生活環境を改善していつてるのかという質問がしたい。それから、地域の連携も含めて同じことを聞きたい。それから、あと先生方にお尋ねしたいのが、先生方はいろいろ研修とかで忙しい忙しいとかというて、夏とか研修にほとんど出られるという調査を僕もさせてもらったことがあるんですけど、その研修を多分1人の先生が行くんじゃなくして、どの部門の研修に関しては先生方が割り振って、その研修に行かれた結果をどのように話し合いをしながら、結果というか、回答を自分らで学校の中でつくっていつていると思うんです、各学校で違いますから。それをどのように生活環境、全般ですけど生活環境ということになればいじめも施設のハード面のことも含めた中でどのように活用されていつておられるのかなど。この資料の中で、大体研修研修研修で先生の技能をアップしなくちゃならないとかというようなことを書かれているんですけど、いじめの問題であるとか不登校の問題であるとかというものをいかに研修で役に立てておられるのかということが聞きたいです。

委員長（西田久志君） 研修について、内容について検討し、生活環境にどのように活用されているのか、役に立てているのかということですか。

委員（大鳴二郎君） この生活環境の変化で児童・生徒、子供たちが成長にどう影響するのかなという、大いに影響があるんじゃないと思うんですけど、そのあたりを知つとる範囲で答えてもらえればと思うのと、今の現在での生徒指導での特に何が問題なあとということを現場へ行って先生方に聞いてみたいという2点。

委員長（西田久志君） ちょっと済いません。もう一度。

委員（大鳴二郎君） 1点目が生活環境の変化は児童・生徒の成長にどう影響するのか。それから、2点目が現在の生徒指導の現状で特に問題と考えることは何ですか。

委員長（西田久志君） 生活環境の変化は成長にどのような影響を与えていると思われるか。現在の生活指導上、特に問題と考える点はあるかということですか。

委員長（西田久志君） 私は、やはりPTAの連携を密にするのをどういうふうにされているかということと、地域の連携、これは藤原委員さんが言われたことと一緒にございま

す。それから、やはり研修についても同じく、いろいろされていると思います。特に、今の時期多いのではないかなと思うんですけど、それがいかに役立っているかというようなことも聞いてみたいと思います。

委員（森下金三君） 皆さん言われたんで結構です。

委員長（西田久志君） 済いませんでした。

委員長（西田久志君） 以上、3項目について各委員の方からご意見をいただきました。

それで、今まで聞いたことなんですけれど、それをまとめるということ、これをすぐにとするのはちょっと無理なんかなと思うんですけど。どうぞございましょう、皆さんのご意見ございませうか。

というのが、前段で申したとおり、実を言うと先生方の、私たちが学校のほうへ訪問するということに関してどの時期がいいでしょうかということになったんですけど、20日前後ぐらいまではちょっとということと、もう20日を過ぎると新学期に向けてもう準備段階で大変だということでございまして、9月の中ごろを過ぎるともう運動会等の準備をせにゃいかんから、できれば9月の始まって1桁のときですか、1日から9日、10日までぐらいだろうというふうに聞いております。大体なアバウトなことを聞いておりますが、この皆さんからご質問の内容をいただいたんですけど、実際に何校へお邪魔するかということも踏まえ、ほいから1校が大体1時間半から、この内容でありますとまとめないと多分物すごい時間がかかると思いますし、私の考えでは1人ずつこれについてと言いましたけど、それについてでも各委員さんにおかれましては、特に現場でもうちょっと聞きたいなということも出てくるんじゃないかなとも思うんです。その中で、どうぞございましょう、たちまちすぐこの意見をこれから出してもう一度復唱して、それを一つにまとめるということなんですけれど、この件につきましてもう一度集まっていたるか、大体のことを聞きましたんでそれをまとめさせていただきまして皆さんにファクスを送って、そのことについて私が言うたことの意味が入ってないじゃないかということも含めて、また事務局のほうへというか、私のほうへ言っていただければ、それを訂正して9月の初めに打診して行くという形をとるか、もう一度このことについて皆さんで、文面にします、検討していただいて9月の初めに行こうという案もあると思うんですけど、どうでしょうか。皆さんのご意見を求めます。

委員（宮地俊則君） 何校か行くピックアップが決まってないようですけども、仮に先ほど言われた1時間か1時間半ぐらいと思う、仮に1時間としますと、委員長、副委員長のほうで今の、かなり重複してる部分があるかと思えますんで、まとめていただいてあらかじめ出していただいて、例えば前段の30分、それに対する回答といたしますか、答弁といたしますか、お話しをいただいて、後段の30分は、さっき言われました、まだこの点についてち

よっと私は深く聞きたいとかというフリートーキングの時間、形としてはそういう形にされてはいかがでしょうか。

委員長（西田久志君） わかりました。詳しいところを言っていただいたんですけど、何校行くかという部分も決めなければいけないのかなと思うんです。どこどこへ行くかです。もう何校行くかというんが決めれば、大体何日間にわたって行くようになるかというのも、先ほど1時間と議長から提案がございましたが、ということになれば、午前中に2校行って、昼からも2校と行けば1日4校かなと。という中で、それを8校ぐらい行こうかなと。全部行くというのは思ってませんから、という意見がございましたんで、それはあくまでも提案でございます。1日2校しか行かないよという意見の方もおられるんじゃないかなと思うわけです。

まず、ちょっと整理させていただいて、この内容につきましてはどうでしょうか。大体似通ったものにつきましては1つの大筋の題にまとめて、それについてはそれぞれの意見が出ましたので、大体のことは聞いていて、現場で多少なりとつけ足して聞くという形をとらせてもらうということでどうでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（西田久志君） それでは、何校ぐらい行ったらというのは大変難しい問題だとは思いますが。

委員（大鳴二郎君） 小学校は13。

委員長（西田久志君） 小学校は13、中学校は5校です。

委員（宮地俊則君） 1日を思われとんですか、2日を思われとんですか。それも含めて。

委員長（西田久志君） それも含めて、3日も含めて。

委員（宮地俊則君） 1つの案で言わせていただきますと、小学校は2日としたら2校2校の4校かなと。それから、中学校が多くて2校、1校からないしは2校。へえで、先ほど三宅委員が言われてたように、小学校で仮に4校としますと、小規模校と大規模校、あと地域的なバランスを考慮していただければ、相手さんがあることですので先方のご都合でいいと思いますが。1つの案で。

委員長（西田久志君） 今、小学校4校、中学校2校ということで、三宅委員のご質問内容から考えて、小規模校、大規模校も含めるということの中で、皆さん、これはもう全部白紙状態ですので大変難しいと思いますが、ご意見をお聞きしますが。

委員（藤原浩司君） それこそ今議長が言われたんで僕はええと思うんですが、中学校はできたら2校、中学校は一番思春期で血気盛ん、意見の中でも結構出てましたんで2校。小学校、大規模校2校に小規模校2校の6校ぐらいでいいんじゃないかなと思います。

とりあえず、きょうのまとめてもらったものを、省くものは省いていただいて、ファクスなりメールをいただければ、こちらで精査して委員長のほうに連絡して、これはつけられんかなということやっていけば、大々的に集まることもなくなって簡潔に済むと思うんで、そのような形でやっていただければなと思います。

委員（西村慎次郎君） ちょっと提案で、訪問は多分限界があるなと思うんだけど、せっかく考えた質問を全校に投げてできる範囲内で回答をいただくということにはできないんですか。

委員長（西田久志君） まず、ちょっと整理させてもらって、一応小学校4校、中学校2校ということについては賛成ということで。

〈異議なし〉

委員長（西田久志君） ということにさせていただきます。

今、質問を整理してそれを全校にアンケートをいただくということについてはどうでしょうか。

その件につきましては、それで結構でございましょうか。

委員（大鳴二郎君） 今藤原委員が言われた、もう集まる必要はねえと言われたんじゃないけど、もう集まる必要はねえですか。この諮問内容をもう一遍確かめるというのをせんで、すぐ正副委員長でまあまあええようにして、もう学校へ行くときすぐ持っていく、その状態でええじゃろうか。

委員長（西田久志君） ただし、これを各委員さんにファクスを送って、もう多分だろうと思いますが、議会のほうへここはおかしいよという注釈をつけていただいて返していただくということで。というのが、多分重複しとる部分もあると思うんですけど、その中でそれを大きな題を書いて、このことについてお聞きする。何も出さんかったら先生方もそれは大変だと思うんで、これについて聞きますということをして、ある程度は現場で多少聞くという、答えていただける範囲内のことを聞くという。だから、いいのかなとは思ってんですけども。

委員（大鳴二郎君） それでいいならよろしい。

委員長（西田久志君） 今の済いません、私が案内を言いましたけど、いいでしょうか。

〈異議なし〉

委員（西村慎次郎君） 大筋の質問はまとめていってヒアリングするというので、追加質問はオーケーっていう。

委員長（西田久志君） というのが、そのことについては関連質問だけ。

委員（西村慎次郎君） 関連質問まではオーケー。

委員長（西田久志君） はい。

委員（西村慎次郎君） ちょっと気になってるのが、学力に関して直接の質問って全く今上がってないんです。いろんな学力向上に向けた取り組みってないんじゃないけど、その底辺となるまず生活環境を改善していこうとか、いじめとか不登校とか施設面っていう視点では上げたんですけど、その辺は何か上げとかないといけないですか。

委員長（西田久志君） それは今時点で上げといたほうが良いと思います。というのが、ある程度、委員長、副委員長できょうが終わって、何日かのうちでまとめたいなと思うんですけど、そのときにやはり内容が入っているほうが先生も答えやすいんじゃないかなと思っております。

委員（西村慎次郎君） 今回は、この大きく3本柱で行くということで、学力はそこまで入り込むとまた話も終わらないかなというのもあるんで、ちょっと関連できる場所があったら追加でさせてもらおう……。

委員長（西田久志君） 学力向上の。

委員（西村慎次郎君） 学力向上なのか、直接の学力向上に向けた取り組みは何かされますかとか、そういうところになってくると話がどんどん別な方向へ行っちゃいけないんで、そこは関連があるようなところが出てくる、生活環境と学力の関連っていう質問は入れてもらってますけど、その程度でとどめるということにしたほうが良いです。

委員長（西田久志君） 出てくりゃいいけど、資料をかき集めるようなことになっても困るからということで。

委員（藤原浩司君） 多分西村委員が言いよってんことは、先ほど1番の中でそれこそ複式とか、それから反復とかというのがあつてんです。その中で多分それで追加では言えると思うんです、聞くことが。その他の面で、要は追加の質問は一応これを言うんだというような形は答えられるか答えられんかは別として、何点かぐらいは委員の中で多分質問したいなという面があるんで、その他でこれに重複するかもしれんですけど、こういう中のものを聞くこともありますということだけは向こうに伝えていただければええんかなと思いますんで。

私も、じゃから反復とか複式とかというのが出たんで学習のことは言わなかったんですけど、そこで言えると思うんでいいと思います。

委員長（西田久志君） 小学校4校、中学校2校なんですけど、具体的にどこへ行こうかということですよ。

もう言うてしまえば、例えば小学校におけるんじやったら野上か青野かというところ。芳井は大きいか。

委員（大鳴二郎君） 生徒数の多いやつか。

委員長（西田久志君） 生徒数の。これから。

委員（宮地俊則君） 今のでよろしいんじゃないですか、青野か野上で。小規模校だったら。それから、大規模校でしたら出部か井原か。それこそ受けていただけるのであれば、そのお二方がだめであれば、高屋になるのか木之子になるのか、美星なのか芳井になるのかわかりませんが。大規模校でいえば一番大きいのは出部ですか。

委員（藤原浩司君） 出部です。

委員（宮地俊則君） 次は、井原。

委員長（西田久志君） 出部。

委員（西村慎次郎君） 西江原です。

委員（宮地俊則君） 西江原か。

委員（藤原浩司君） 西江原大きい。

委員（宮地俊則君） 受けていただけるかどうかじゃから、もうそつから上から順番に受けていただけたら。

委員長（西田久志君） 上から下から。

委員（宮地俊則君） そうそう、上から下から。それと、今言うように、それぞれが1校ずつ決まれば、大規模校、小規模校が決まれば、あとは地域バランスでええんじゃないんですか。

委員長（西田久志君） 大規模校、小規模校という分類でいくのならば、要するに大規模校から小規模校から受け入れてくださる学校へ打診するということがいいですよ。

〈異議なし〉

委員長（西田久志君） それで2校は決まりました。あと2校。

委員（宮地俊則君） 中学校は皆同じぐらいじゃな。

委員（藤原浩司君） アンケート的に言えば、芳井中学校ほうがええかなと思う。

委員長（西田久志君） もう行きましょう、具体的に。

委員（藤原浩司君） それこそ、もつとがつんと言ってくれるような先生が欲しいという
ような保護者の意見があつたりするんで、ここの子供に特に大きな影響を与える存在、先生
が存在じゃから模範となるようなものの先生が来てほしいとのことを書かれてる保護者の方
もおられるんで、PTAのほうも結構強固にやられよってんかなというような気もするんで
すが。アンケート的に見れば。

委員長（西田久志君） 芳井。

委員（藤原浩司君） 芳井。あと、ほいから大きいところで言うと、木之子、井中、高屋
のどれかになります。だから、できれば小学校と重ならんほうがええでしょうから。4校小
学校が決まって、そのはざまの中学校へ行けば。別に芳井に限ったことはないですけど、そ
りゃ。

委員長（西田久志君） もう指定という形でちょっと案を出しましょう。

委員（藤原浩司君） 出しましょう、そりゃ。

委員（宮地俊則君） 今さっき言ったように、小学校に関しては大規模校、小規模校で2
校が決まるわけです。受けてくれるところということで。

委員長（西田久志君） もう出部……。

委員（宮地俊則君） 上から下からとで。

委員長（西田久志君） 出部というふうに。

委員（宮地俊則君） 仮にあるとすれば出部、井小とか、その次と。

委員長（西田久志君） 井小。

委員（宮地俊則君） 逆に、小規模校であれば野上、それが都合が悪ければ青野にお願い
してみると。あとはバランスを考えて、旧市内の1校と芳井か……。

委員長（西田久志君） これは中学校。

委員（宮地俊則君） いやいや、小学校。中学校は、同じく旧井原市の1校と芳井ないし
は美星。小学校とは違うほうにお願いしてみると。それがだめだったら、もうそのときは旧
市内が2校になってもしょうがないと思いますけど。

委員長（西田久志君） ほんなら、これはもう打診するというで。

委員（宮地俊則君） それは相手のことがあることじゃから。

委員長（西田久志君） そうさせていただきます。

では、それでよろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員（宮地俊則君） 皆さん、どっかぜひこの中でピンポイントで行きたいというところがあれば。

委員（西村慎次郎君） 地域全体を包含できるような形で。小学校は4校なんで、中学校区を1校ずつとると5校になっちゃうんで行けないんだけど、中学校区から小学校を1つずつ選んで。高屋中学校区、高中も行かない、高屋小学校区も行かない、高屋、大江、稲倉。中学校区から1校ぐらい選ぶような。

委員長（西田久志君） わかりました。

委員（西村慎次郎君） 4校だから、5中学校区あるけあれですけど。

委員長（西田久志君） ほいじゃあもうここで多分希望を出すということで、今の希望をいただいて聞くと。打診するという事です。そうさせてもらってよろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員（宮地俊則君） 問題は日程じゃ。

委員長（西田久志君） 皆さん、日程なんですけど、9月1日。いつから始まるんですか、学校は。1日から。

委員（藤原浩司君） 28日。

委員（西村慎次郎君） 学校によって違います。

委員長（西田久志君） 学校によって違う。

委員（藤原浩司君） 大体、27、8日からです。

委員長（西田久志君） それを含めて、1日の週、1、2、3、4、5。

委員（宮地俊則君） 1日は避けましょう。

委員長（西田久志君） いや、せえが早う始まっとりゃええんじゃないですか、28から始まっとりゃ。そういうことは無理ですか。

委員（西村慎次郎君） 学校によってはその前の週から。

委員（藤原浩司君） 井小は28から。

委員長（西田久志君） 各委員さんで、1日から次の週の9日ぐらいまででだめな日を教えてください。

委員（西村慎次郎君） 午前午後もう両方、1日あけといてくださいという。

委員長（西田久志君） 1日あけといていただきたいと思います。

委員（藤原浩司君） 丸1日な。

委員長（西田久志君） それから、6校ですから……。

委員（宮地俊則君） 2日。

委員長（西田久志君） 2日ですか、そうです。

委員（宮地俊則君） 午前午後。

委員長、副委員長のほうで打診していただくということですので、とりあえず1週目の1日から5日の金曜までで、2日ぶっ続けでもいいですし、1日あいても2日あいてもいいですから、それで一つ。

委員長（西田久志君） たちまち、ほんなら皆さんのだめな日というんはない。

委員（大鳴二郎君） 4日。

委員長（西田久志君） 4日がだめですか。

委員（藤原浩司君） 僕も4日だめです。

委員（西村慎次郎君） 私も4日。

委員長（西田久志君） できれば、中ごろからもう始まるというちゃったけ、できれば早目にして、総務委員会も今度は早急にせにゃいけんのかなという。すぐには、多分まとめにゃいけんけえ、かなりあれじゃと思うんですけど。そりゃ1週間ぐらいまとめをいただかにゃ、ちょっとできんのかな。できればまとめて。済いません、大鳴副委員長、藤原委員さん、それから西村委員、4日がだめと。ほかの日はいいですか。

じゃあそれをお聞きしときます。先ほどちょっと話になりましたけど、6校ということで1日半かないし2日ということになると思います。

委員（宮地俊則君） 移動は何で。

委員長（西田久志君） 7名。

委員（宮地俊則君） 7名で行くわけです。ほんなら、自家用で乗り合わせで行きゃええんですね。

委員長（西田久志君） はい。問題ないですよ、何ら。

委員（宮地俊則君） 問題ないですよ。

委員（西田久志君） 起きちゃいけんけど、事故等に関しても何ら問題ないですね。起きちゃいけんけど。わかりました。

委員（大鳴二郎君） 日にちをどうするん。日にちを決めるんじゃねえん。

委員長（西田久志君） それは、もう相手に。学校に聞かにゃいけんということで。1から4日を省く日という。

委員（宮地俊則君） 1点お聞きするんですが、先ほど行かないところにも全部これを聞くということで何か決まったようなんですけど、形としてどうやってするんですか、そり

や。教育委員会通してするんですか、それとも委員が各学校をお願いして回るような形にするんですか。そこまでちょっと決まってないように思うんですけど。

委員長（西田久志君） どうでしょうか、皆さんのご意見。

委員（藤原浩司君） 教育委員会のほうを通じて連絡を差上げたほうが一番早いかなというような気がせんでもないですが。

委員（宮地俊則君） そういうことになれば、またこういうことが言えるんかどうかわかりませんが、回答期限もお示しをお願いしていかんやいけんのんじゃないかなと思うんじゃないけど、具体的には。

委員長（西田久志君） 9月に行きます、訪問して質問を聞きます、多分その後かなと。その前。

委員（藤原浩司君） そりゃその前でしょう。

委員長（西田久志君） ちょっと皆さんのご意見を求めます。

委員（藤原浩司君） きょう一応結果が出たんで、その中を精査していただく時間がかかります。それを皆さんにファクスなりメールなりしてもらって、また回答を戻さにやいけんです。それを考えますと、教育委員会のほうを通じて言うのであれば、24の日曜日の週には今週いっぱい回答をもらわないと、もう次の週でしょう。それが最短ということになりますけど、この二、三日中にまとまるのであれば、今週中に回答も返すように委員さんに頑張ってもらいせにやいけんかなと。そうすれば、来週中から教育委員会に1週間、28日の始業式、27日の始業式とかの前には絶対にくれえよというようなことが言えるんじゃないかなと思います。

委員長（西田久志君） ですね。ほかの皆さん、わかりましたか。要は、きょうは11日でございます。委員長、副委員長で、二、三日ということですから、13、14で皆さんにファクスすると。そのお答えをその週、17日の日曜の週もしくは18日ぐらいに返していただいて、それで正式なんができて、それを今度は教育委員会のほうへ持って行って、それでアンケートの答えを……。

委員（藤原浩司君） 27、8日にもらわにやいけんです。

委員長（西田久志君） 25日の週ぐらいに回答を返していただく。これができるのかどうかというのはちょっと疑問ですけど、それぐらいせん多分間に合わんのかなという。

委員（宮地俊則君） さっき言った6校へ行く前に、それ以外のところはもう回答をいただいとくということですか。

委員（藤原浩司君） それは、後でしょう。当然のこと。

委員長（西田久志君） 済いません、先走りました。

委員（宮地俊則君）　　そういうことでしょうか。

委員長（西田久志君）　　違います、違います。

委員（宮地俊則君）　　違うの。

委員長（西田久志君）　　はい。

委員（大鳴二郎君）　　学校へ行ったあとじゃろう。

委員（藤原浩司君）　　だから、訪問させていただいてヒアリングをしてから、要はほかのところも、1日の週どこになるかわかりませんが、その同時進行ということはないですけど、9月の週になるか始業式が始まった時点ではもうわかってるわけですから、行く学校がわかるわけですから、回答が来て。そのわかった時点で全体に出して、その回答は9月8日の週であるとか15日の週であるとかというふうに持っていきさえすりゃあ、別に問題はないんじゃないかなと思います。

委員長（西田久志君）　　ほかの委員のご意見をお聞きします。

委員（大鳴二郎君）　　へえじゃから、学校訪問をした後に回答をもらやあええということじゃろ。

委員（藤原浩司君）　　そういうことです。

委員長（西田久志君）　　わかりました。

〈なし〉

委員長（西田久志君）　　では、それでそうさせていただきます。

皆さん、ほかにございますでしょうか。

〈なし〉

委員長（西田久志君）　　それでは、次回委員会を決めていただきたいと思います。

9月1日の週ですか、5日までで訪問をすると、質問をする。それをまとめて、そのことについて協議するということにはなると思うんですが。ということになれば、1週間から10日。

委員（大鳴二郎君）　　要る。

委員長（西田久志君）　　16日の週ということになると、19日がもう議案説明ですので、それぞれの議会に向けてのがあると思いますし、初めの辺は……。

委員（宮地俊則君）　　議会説明会の終了後でいかがでしょう。

委員長（西田久志君） 議会説明会の終了後、29日月曜日。

委員（宮地俊則君） 19日。

委員長（西田久志君） 議案説明の終了後、19日の金曜日。皆さんどうでしょうか。そういうご意見が出ましたが。

〈異議なし〉

委員長（西田久志君） それでは、19日の金曜日ということで。1時半から議案説明がございまして、その議案説明の後ということにさせていただきます。

ほかに何かこれに関連してご意見ございますでしょうか。

議会事務局次長（岡田光雄君） 先ほどのアンケートを出すタイミングがちょっとよくわからなかったんですが、もう一度。

委員長（西田久志君） アンケートを出すのは……。

委員（藤原浩司君） いつ行くかというのが決まった時点で、それと同時進行でいいでしょう。

委員長（西田久志君） 9月1日から5日の間に行きます。質問を発送する日。

委員（藤原浩司君） 発送すりゃあ、ほかの学校を訪問する日と並行でもいいですし前の日でもいいですし、そのあたりじゃないといけんでしょう。

委員長（西田久志君） ということは、もう1日以降ですね。

委員（藤原浩司君） 決まった日にちです。回収を、ほいじゃけ次の週いっぱいでもらわんと、19日ということになると。集まるんですから、それを持って。

委員長（西田久志君） 回収が12日金曜日まで。

委員（藤原浩司君） もしくは、16、7でもええです。議案説明の後、委員会が始まる前でもええです、別に。

委員長（西田久志君） まとめる時間があります、多少なりと。多少というか、時間がかかるんじゃないかな。

委員（藤原浩司君） そんなにかからんでしょう。回答はもう大体わかります。

委員長（西田久志君） 回収は、もう12日ぐらいですか。皆さんどう思われますか。

委員（藤原浩司君） 間に合わせていただければ。最終的に間に合わねば、16日、17日ぐらいまで。1日間あけてプリントするだけでしょうから。もらったものをそのままもらやあええんで。

委員長（西田久志君） 16か17。

委員（藤原浩司君） 学校側の都合が悪ければ。

委員長（西田久志君） わかりました。じゃあ学校側の都合も聞きます。

委員（藤原浩司君） そうですね。

議会事務局次長（岡田光雄君） そのアンケートの内容は、先ほどの内容をまとめたもので回答をいただく。

委員長（西田久志君） そうです。

議会事務局次長（岡田光雄君） それでは、教育委員会経由でということで良いですね。

委員長（西田久志君） そういうことです。

〈なし〉

〈その他〉

委員長（西田久志君） 皆さんから何かございましたらお願いいたします。

〈なし〉

委員長（西田久志君） 閉会に当たりまして、議長何かございましたらお願いいたします。

〈議長あいさつ〉

委員長（西田久志君） 以上で総務文教委員会を閉会いたします。

ご苦労さまでした。

議会への提案について

| 回収場所 | 記入日 | 内 容 |
|-----------|-------|---|
| 市役所 1階 | 6月15日 | 井原市人口が昨年700人も減少していると新聞で知りましたが、それなら外部から呼んで来て井原にお金をおとしてくれることを考えたらどうでしょうか。井原運動公園、立派なものがありますが、その体育館北側駐車場の所に2階建ての宿舎を作り、食堂もあり、泊るには風呂もあり空調もありで年中使用出来るようにしたらいかがでしょうか。児童会館のようにクーラーしかないの春先は寒くて寝れません。 何かにつけて井原は中途半端なことばかりしてきているのできちんとした物を作ってほしいと思います。 トレーニングルームのレザーも早く修繕して下さい。 |

回答（案）

この度は井原市議会へご提案をいただきありがとうございます。

〇〇様からいただきましたご提案につきまして、回答が遅くなりましたが、執行部に確認した結果をもとに井原市議会から回答させていただきます。

ご提案いただきました井原運動公園の体育館北側駐車場の所へ2階建ての宿舎を新設することにつきましては、執行部に確認しましたところ、「井原市内には、児童会館、経ヶ丸グリーンパーク、星の郷ふれあいセンター等の既設の宿泊施設がありますので、そちらの施設をご利用いただきたいと思います。ご提案の宿舎につきましては、当面、建設予定はございません。」との回答が、また、児童会館にクーラーしかない件につきましては、「費用対効果が見込めないため、現在のところ考えていません。」との回答がございましたのでご了承ください。

また、井原体育館のトレーニングルームのレザーの破損等、傷みの著しい設備、部品等につきましては、早急に修繕を行う予定ですのでご了承ください。

今後も、お気づきの点等がございましたら、市役所担当課もしくは市議会へご提案をいただきますようよろしくお願いいたします。